

平成19年9月11日（火）

（午後2時3分 再開）

○議長（中上良隆君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番10、7番 中谷和史君。

〔7番（中谷和史君）登壇〕

○7番（中谷和史君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問を行います。新人議員といたしまして、前回6月議会で質問させていただきましたが、私たち議員の問いかけが市当局にどのような重さで受け取られ、その後、どのように改善され、あるいは行政施策の中に取り入れていただいているのかを検証しながら、今回の質問を行いたいと思います。したがって、前回と関連する内容につきましては、そのことを踏まえ前向きのご答弁をお願いいたします。

3項目9点の質問を行います。

1項目めは前回、母子健康センターの運用と駐車場その他の安全確保について取り上げさせていただきました。また、たまたま7月の初めの雨の日に通りがかりましたところ、大変混雑していましたので、思わず少しですが交通整理を手伝わさせていただきました。その母子健康センターの出産子育て支援と妊産婦の安全確保に関し質問いたします。

1点目は、少し前に新聞でも随分報道されましたが、奈良県で昨年引き続き同様に救急病院の受け入れ拒否により、受け入れ先が決まらず救急治療の遅れにより妊産婦さんの悲惨な事故が起きました。そこで、橋本市の救急受け入れ体制についてお伺いいたします。現在とられている状況とバックアップ体制についてお答え願います。

それと、前回財政不足で何もできないよう

なご答弁をいただいたかと思うのですが、あるいは保健福祉センター建設までの間、何の手だてもないかのようなお答えであったかと思いますが、少しでも利用者の利便性と安全性を考えますと、当面、出張分散開催しか手がないのかなと思います。そこで2点目として、母子健康センター事業の分散開催であります。

現在、高野口町の産業文化会館で行われています同じ規模、回数の出張母子センターを隅田町公民館で開催するといたしますと、何がネックになり、財政負担がどの程度発生し、部及び課の年間予算のどのくらいの増加率になるのかお教え願います。

また、前回同僚議員の質問に対し、やはり財政的にというお話でしたが、3点目として妊婦さんの出産前5回の健診支援をすると723万円の費用を見込むとありますが、積算の根拠のご提示をお願いしたいのと、部及び課の年間予算に占める比率はどのくらいになるのか。20年度予算の編成がもうすぐ始まりですが、採用される意気込みと取り組みをお教え願いたい。

2項目めは前回のご答弁と本議会初日の全員協議会の協議を通じて疑問に思いましたので、新人ゆえ、初歩的で申しわけないのですが、経済部各課の役割と、現在取り組まれている作業、役割、事業についてお伺いいたします。

1点目は、農林振興係及び観光振興係の作業、役割、事業などの役務についての人員数、そして他の部局との連携の度合いについてお教え願いたい。

2点目は、地籍調査係の地籍調査の進捗状況であります。橋本市全体に占める割合及び

山間部に占める割合、旧高野口町に占める割合も統計があればお示し願いたいと思います。

3点目は、前回のどなたかの答弁で、特区ではなく橋本市は「頑張る地方応援プログラム」で頑張りますとありましたので、調べてみますと、商工観光課としては「頑張る地方応援プログラム」政策分野6番の観光振興・交流プロジェクトにエントリーされているようですので、その取り組みと進捗状況についてお教え願いたい。

それと6月議会での道の駅(観光拠点施設)に対する私の質問に対して、部長答弁の中でカーナビ云々、かつらぎ480号整備により観光客が行ってしまうのはいたし方なしとのお考えのようにとられかねないお答えがございました。真意は道の改修が先だということだと思えますが、その答弁を踏まえ、県や国へ道路改修の陳情を行うなど、具体的に活動されているのか、あるいは改修待ちの姿勢なのか。橋本市の商業及び観光に対する行政当局の取り組み姿勢と熱意についてお伺いしたい。

3項目めは、前回補正予算で出ていましたやどり地区付近の移動体通信難視聴対策についてであります。何らかの調査と原案に基づいて予算が計上されていると思いますので、1点目としてその原案でカバーできる難視聴解消面積の比率についてお伺いします。特に谷合いが目的だとの前回答弁がございましたので、犬戻り地区から川合橋地区ぐらまでの通称玉川峡地域の範囲で結構でございます。

2点目は、検討する中で、飛躍的に難視聴解消面積が増加する方法が出てきたときは、費用対効果で原案見直しの余地はありますか。

3点目は、やどり観光交流センター開設に向けての周辺整備の一環と思うのですが、玉川峡地域及び周辺地域の緊急連絡対策の観点から考えた場合、地元住民だけではなく、入り込み、あるいは通過する観光客の交通事故

などの緊急連絡整備として携帯電話の不通解消は喫緊の課題であろうかと考えますが、当局のお考えをお伺いいたします。

以上、1回目の質問とさせていただきます。

○議長(中上良隆君) 7番 中谷和史君の一般質問に対する答弁を求めます。

病院長。

[病院長(青木洋三君)登壇]

○病院長(青木洋三君) 中谷和史議員のご質問にお答えいたします。

橋本市民病院の妊産婦の受け入れ体制についてでございますが、昨日、10番議員にもお答えいたしました。現在、本院の産婦人科の体制については、常勤の産婦人科医師が2名おり、妊産婦等の診療にあたっております。また、当直体制ですが、常勤医2名と和歌山県立医科大学からの応援医師で毎日当直を行っております。なお、緊急症例の場合も、可能な限り当院で受け入れるようにしていますが、緊急症例が重なった場合や、対応不可能な3次救急症例につきましては、昨年春から設置されている和歌山県立医科大学周産期センターと連携をとり、ドクターヘリの活用もできる体制をとっております。ご理解のほど、よろしくお伺いいたします。

○議長(中上良隆君) 企画部長。

[企画部長(吉田長司君)登壇]

○企画部長(吉田長司君) やどり移動体通信難視聴対策についてお答えいたします。

やどり地区に建設いたします施設はNTTドコモ関西のFOMAプラスという種類で、周波数800メガヘルツを利用した携帯電話でございます。また、携帯電話局の種類には、小型局、一般局、親子局があります。今回やどり地区に計画しております局は小型局でございます。

ご存じのとおりこの800メガヘルツの周波数を利用いたします電波は、障害物があ

すとその先へは進めませんので、やどり地区のような山が急峻で川が湾曲している地域では広い範囲をカバーすることが難しくなります。また、広い範囲をカバーするには多くの鉄塔設備が必要となります。今回の計画にあたり、事前にNTTドコモの技術者と現地調査を実施し、効果を優先した中で位置選定を行いました。ちなみに親子局方式を実施いたしますと、親局1施設に約3,000万円と子局1施設の建設に約2,000万円の費用がかかるのでございます。このようなことから、計画地付近での場所等の位置変更は可能ですが、局方式など施設の内容に係る変更の余地はない状況でございます。

次に、最初にご質問の難視聴解消面積比率ですが、犬戻り地区から川合地区の間、約5.3kmのうち、今回やどり地区事業において携帯電話が利用できる範囲は約0.8km程度と考えられ、距離比率で15%程度です。該当地域における利用者は、居住者数は少なく、青少年旅行村を中心とする観光客、釣り客、通過観光客等の利用が中心と考えられます。

またNTTドコモにお聞きいたしましたところ、「ある程度の採算性は確保できる」と聞いており、効果は期待できるものと考えられます。ただし、通信可能の範囲が狭いという点につきましては、現地の地形的問題でありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

次に、玉川峡地区地域及び周辺地域での緊急連絡対策につきましては、今回計画いたしております携帯電話及び従来からの有線電話のご利用をお願いしたいというふうにご考えてございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

○健康福祉部長（上田敬二君）出張母子健康

センターの高野口町と隅田町の分散開催についてお答えいたします。

現在、母子健康センターでは、乳児健診、乳児健康相談、1歳8カ月健康相談、3歳6カ月健診、両親教室、離乳食教室と予防接種事業として、BCG、三種混合、ポリオなど9事業について年間168回開催しております。また、産業文化会館アザレアでは、乳児健診、1歳8カ月児健康相談、1歳8カ月健診と予防接種事業として三種混合、ポリオなど5事業を年間34回開催しております。

産業文化会館での事業実施のための年間費用は、概算で母子保健事業費として228万9,000円でこれらは医師、看護師、歯科衛生士、栄養士の委託料及び雇い上げ料が主なものです。また予防接種事業費については、61万3,000円となっております。産業文化会館同様、これらの事業を隅田地区公民館で実施した場合のネックになる部分についてですが、日程の調整や医師、看護師等の確保、保健師及び事務スタッフの増員、費用の増大、会場の設営の準備や後片づけ、荷物の納庫の問題等が挙げられます。費用の増大については、施設使用料を除いた新たな費用249万7,000円が必要となります。

次に、議員から平成19年6月定例会一般質問でご質問いただきました母子健康センターの駐車場確保のことにつきましては、その後の議員のお力添えや橋本小学校のご理解、ご協力によりまして、特に混雑が起きている乳児対象の事業開催日について、グラウンドをお借りするようになりました。ご報告させていただきます。

次に、健診支援の723万円の費用についてお答えいたします。現在、妊娠初期1回と後期1回、計2回の妊婦健診の公費負担と35歳以上の超音波検査1回の公費負担を行っております。議員がおただしの平成19年6月市議会

定例会、楠本議員の一般質問において答弁させていただきました723万円の積算の根拠につきましては、5回の健診を実施した場合、すべてにおいてあと3回の費用が必要となり、追加の健診費用、1回平均5,000円といたしますと、5,000掛ける3回、掛ける482人イコール723万円となります。

平成20年度から本市の妊婦健康診査の公費負担の取り組み状況につきましては、和歌山県は本年度から妊婦健診拡充策として、3人目以降のお子さんの出生を対象に8万1,000円を上限に補助する方針です。この新規事業は本市の少子化対策の一環としても重要な施策ととらえており、県下の実施状況をも踏まえ、遅くとも平成20年度当初予算までには実施について結論を出してまいりたいと考えております。ご理解のほど、よろしくお願いたします。

○議長（中上良隆君）経済部長。

〔経済部長（仲 完治君）登壇〕

○経済部長（仲 完治君）経済部各課の役割等についてのご質問にお答えをいたします。

商工観光課観光振興係の事務分掌につきましては、観光宣伝紹介及び案内、名勝の保全、歴史街道モデル事業、国民宿舎やどり青少年旅行村・自然体験施設ひこばえの里の管理運営等、自然公園法、また市観光協会及び各種団体との連絡調整、市ヘラブナ釣り大学、観光施設ステーションギャラリー、地域雇用創造促進事業、紀の川祭、桜まつり、紀の川カップまつり、市民菊花展に関する事などです。係りの人員は2名です。

次に、農業振興係及び林業振興係の役務と人員については、農業振興係は4名、林業振興係が2名です。

農業振興係の主な業務として、優良農地の保全、休耕地の再生など生産基盤の充実や担い手の育成などの経営主体の強化による都市

近郊型農業の充実や、販売ルートの開拓・強化、生産者と消費者との交流など販売促進等を目標に従事しています。また、鳥獣による農作物の被害が年々増加する中で有害駆除にも取り組んでいます。

林業振興係の主な業務として、森林整備計画に基づき、森林の管理と林業の振興に努めています。森林組合と連携をとり、林業従事者や後継者の育成確保を進めるとともに、自然への関心の高まりに対応するため、緑化の推進や、森林との触れ合いの場の創出に取り組んでいます。

次に、2番目の地籍調査係の地籍調査の進捗状況のおただしについてお答えします。

現在の地籍調査の進捗は調査対象面積127.64km²のうち約31.3km²、約26%が調査を完了しております。補足としまして、旧高野口町では、紀の川等を除く調査対象区域約19.1km²のすべてが平成16年度に完了し、旧橋本市では、平成4年度から着手し、紀の川等を除く調査対象面積、約108km²のうち約12.2km²が完了しています。

次に、今後の地籍調査予定は、宅地、農地等を基本に年間1km²から3km²の面積の進捗を図り、平成50年を目標にしております。そこで、山林地区の地籍調査はより一層遅れることが予測されることと、山林地区の境界確認に関して、高齢化が進む中で今後一層境界確認が困難になることも踏まえ、昨年度に山林地区への杭等の支給による地元において民境界杭の設置に取り組んでいただき、山林地区の境界確認の進捗に対する新たな施策の説明会を開催し、ご協力をお願いしました。ついては、山林対象50地区のうち17地区が積極的に取り組みたいとの回答がありましたので、今年度から回答のあった17地区に対し、順次杭、ペンキ、テープ等の支給を行い、将来の地籍本調査の施行がスムーズに進められ

ると思慮いたします。また、民境境界杭の設置が概ね終了した山林地区へは、順次地籍の本調査に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、3点目のご質問でございますが、6月答弁が不十分でありましたこととおわび申し上げます。やる気のある地方が自由に独自に施策を展開することにより、魅力ある地方に生まれ変わるよう、地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方自治体に対し、地方交付税等の支援措置を講じるのが「頑張る地方応援プログラム」です。商工観光課では、観光振興、交流プロジェクトとして、平成19年度から平成23年度の期間で市の南部の南宿、北宿、彦谷地域において、やどり青少年旅行村の建て替え、新たな温泉源の掘削、駐車場、園地整備、食を中心とした地域特産品づくり推進事業、地域サポートクラブ、「玉川倶楽部」の創出と支援の体験事業に取り組みます。

そのため、この地域に観光交流センターを中心とした交流の場の確保と、道路整備などによる地域住民の生活環境の充実、さらには駐車場整備などによる来訪者が気軽に自然体験ができる環境の整備を進め、交流人口の増加を図るとともに、地元産品や新たな特産品の開発を行い、都市住民のいやし、レジャーの場としてのポテンシャルを高め、地域の活性化はもとより、市全域の活性化へ導くものです。

次に、道の駅についてですが、先ほど「頑張る地方応援プログラム」でも述べましたように、高野山への玄関口としての国道371号線の道路整備などが進められており、南宿、北宿、彦谷地域を橋本市の奥座敷と位置づけ、観光物産拠点として、交流の場の確保を図ってまいります。

次に、工事計画を進めています橋本高野橋

から紀の川左岸広域農道を利用して、九度山町の赤瀬橋に至るルートが考えられます。このルートはスカイラインとも言える眺望の良い道路であり、農業が盛んな地域を通過することになりますので、こうした農産物の販売を含めた地域振興策を今後検討する必要があると考えています。ご理解のほど、よろしく申し上げます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君、再質問はありますか。

7番 中上和史君。

○7番（中谷和史君）ご答弁いただきましてありがとうございます。概ねいただいたような感じでございますけれども、ちょっと多岐にわたっておりますので順番に伺わせていただきたいと思います。

まず、妊婦の受け入れ体制等々についてでございますけれども、県立医科大学とドクターヘリ等につながっておるということですので、あまり心配はないだろうと思っておりますけれども、連携をしておる病院の数、きのうちちょっと5病院とか言われたと思っておりますが、救急でどこの病院が受け入れいただけますかということをよく救急隊員がお伺いになるんですが、救急車の中でやっておられるようですけれども、それを連携されておる救急病院の数と、また、今回奈良で起こりましたようなかかりつけ医の医師がないとか、あるいは県外からお見えになった観光客、旅行客などが急に産気づいたとか、あるいはけがをしたとかいったときの、けがの場合はあれでしょうけれども、そういう場合の受け入れ体制について再度お伺いいたします。

○議長（中上良隆君）病院長。

○病院長（青木洋三君）ただ今のご質問につきましてお答えいたします。

産科といいますのは非常に特殊な診療科でございますので、昨日お答えいたしました病

院群輪番制に参加している病院には、産婦人科を開設している医療施設はございませんので、あの中では当院だけでございます。そういうことで、かなり遠隔にはなりますけれども、幸いドクターヘリがございまして、先ほどもご答弁の中で申し上げましたように、和歌山県立医科大学の周産期センターと密に連携をとりながら、お互いに補い合っているというのが現状でございます。

〔「県外からの」と呼ぶ者あり〕

○病院長(青木洋三君)私ども産婦人科では、やはり手近なところでは里帰り出産、そういうのもございますけれどもできるだけ受け入れるようにしております。かかりつけ医を持たずに突然いっしょという患者さんも数が少ないんですけどもございまして、今までは全部受け入れてまいりました。

○議長(中上良隆君) 7番 中谷和史君。

○7番(中谷和史君) それでは、分散開催についてお伺いいたします。日程調整が一番の多分ネックになるのかなというふうに思うわけでありましてけれども、今は出産でそれぞれお休みになっておられる保健師さんとかおいでになるようございましてけれども、この日程調整、人員増強云々というのがあるかもわかりませんが、費用的には249万円ということで、全体費用の何%とかちょっとお伺いもれましたけれども、ぜひ開催をやりたいというふうに再度お願いしたいんですが、部長さんのお考えを再度お願いいたします。

○議長(中上良隆君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(上田敬二君) 特に対象になる方が小さいお子さんの手を引かれて母子健康センターなり産業文化会館へおいでになる方、そのような状況について、特に雨降りなんか私自身も目にしておりますし、よくわかるんですけども、やっぱり課題になるの

が医師とか看護師、あるいは歯科衛生士、それとうちの職員の保健師もそうなんですけれども、その人的確保と予算にしたら約725万円ですけれども、やっぱり費用の面でも。

はい。約249万円ですか。これはにつきましては、やっぱり費用の面、現在の予算では組みかえているような状況もありますので、非常に心苦しいんですけども、現況においては難しいのかなと思っております。

○議長(中上良隆君) 7番 中谷和史君。

○7番(中谷和史君) ありがとうございます。

249万円と多少の人員と、そして日程調整ということで、障害がわかれば、あるいは財政負担がわかれば、その保健福祉センターができるまでの間ということで、時限的に考えていただきまして、何とか前向きに。

なぜ隅田かといいますと、北部住民が一番多いのはわかっておるんですけども、あやの台の道が抜けまして、隅田の公民館が非常に新しい施設で、道としては非常に便利のところにあると。そうして部屋の状況も非常に良いので、あそこで開催をやっていただければ、100台ぐらいは常時とめられますし、そういうお母さん方に本当に便利にやられるんじゃないかなというふうに思うわけでありまして。

それと続きまして、その出産前の5回の健診という形になりますと、723万円ということ。これは前回のご答弁の中で、部長のほうから20年度の予算に向けてということを答弁されたと思いますので、20年度はこれで実行されるという理解でよろしいでしょうか。

○議長(中上良隆君) 健康福祉部長。

○健康福祉部長(上田敬二君) まだ、本市においては確定しておりませんが、今年の当初予算において県知事の予算の編成方針が明らかになった段階で、少子化対策の一つとして盛り込まれた事業ですので、今年から

の新規事業になります。それで、実施するにあたっては、各市町村の2分の1の負担を伴ってついていかなければならないという事情がありまして、各市町村とも当初予算の段階では対応できなかったんですけれども、その後、随時検討されておりまして、実施する自治体が増えてきております。よそに合わせてというのではないんですけれども、答弁でも言わせていただきましたけれども、少子化対策の一つとして第3子目以降の健診費用の手だてですので、有意義なものであるとの認識を持っております。そういった意味から、担当部としては実施の方向で進めてまいりたいと思っております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。担当部のほうは前向きに当然予算等があればいきたいなということだと思います。女性の立場として、副市長のお考えのほうをちょっとお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）副市長。

○副市長（清原雅代君）ただ今中谷議員から女性の立場ということで、答弁を求められましたが、私はあくまでも橋本市の副市長の立場で、答弁をさせていただきますと、新年度の予算においても枠配分という非常に厳しい中で予算組みをしようとしております。その中でもやはり橋本市として取り組んでいかなければいけないものについてはやっていきたいというふうに考えております。担当部長としてぜひともといういろんなそういうやりとりの中で、この予算についても決まってしまうので、またその中身につきましては、十分に話し合いをした上で、前向きに取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。

た。副市長としてと言われてしまいましたので、市長にお伺いする機会を逃してしまいました。

それでは、2項目の経済部のほうに移らせていただきたいと思います。役割の分掌につきましては、随分いろいろお仕事をされておることがわかりました。答弁書のコピーをまた後でいただけたらありがたいかなというふうに思います。

私がなぜ他の部局との連携についてお伺いしたかといいますと、農林振興係の方は当然農業施策についていろいろご検討されておるであろうし、観光振興係の方につきましては、橋本市の観光全般についてお考えになっておる、これは当然のことだろうと思いますし、市のホームページにも簡単に役割が出ております。

その中で、実は今議会の全員協議会のところで、広域ごみ対策室から示されました広域ごみ処理施設建設に伴う周辺整備事業という説明の中で、答弁を聞いておりますと、何か広域ごみ対策室だけが一生懸命、商業施設であつたり、温室であつたりというようなことを一生懸命考えているような印象を持ちました。

そこで広域ごみ対策室長にお伺いしたいんですけれども、商業施設、農業施設ともに何らかのデータの提供や事業内容について提案などが経済部から協力があったのか、あるいは協力を要請して、ともにつくられた原案であつたのか、その辺のところをお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）広域ごみ対策室長。

○広域ごみ対策室長（山本重男君）ただ今のご質問にお答えさせていただきます。

過日、全員協議会においてご説明させていただいたのは、地域活性化交流施設整備計画ということで、広域ごみの処理施設建設に伴

います周辺整備事業でございます。ということの中での基本計画でございますので、広域ごみ対策室のみで立案したものでございます。

今後、基本計画をもとに過日の全員協議会、それから地元の方々、皆さま方のご意見を参考にしながら、詳細設計に入っていくこととなります。そのときにこの事業の性質上、関係部局との連携は不可欠なものでございます。ということで、詳細設計に入っていく中で、農林それから商工観光部局や他の関係部局と強い連携を持ちまして進めていきたいとこのように考えております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）済みません、突然振ったような感じで申しわけございません。ちょっとこの前の全員協議会でそういう印象を持ちましたので、お伺いしてみました。

よく縦割り行政の弊害ということと言われるわけですが、同じようなことを隣の部課でやっておるというようなことがあろうかと思えます。部長調整会議などで、当然情報の共有化を図られているとは思いますが、専門家の集団がいてるわけですから、やはり情報の提供、協力をこれからしてっていただきたい。これはお願いであります。ぜひとも商業観光のすばらしい橋本市にもってっていただきたいなというふうに思います。

2点目、地籍調査の進捗状況については26%ということで随分進んでいるなということを感じました。また高野口町につきましても、ほぼ終わっているということでしたけれど、後の「頑張る地方応援プログラム」と重なるんですが、市長が力を入れておられるやどり地区周辺、犬戻りまでの玉川峡の部分における進捗状況というのは、川沿いは概ね計測が終わっておられるのかどうか、その辺のところを。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。その範囲がちょっとわかりませんので、ちょっと詳しく。

○7番（中谷和史君）地籍のことです。犬戻りからやどりまでの玉川峡地域ということですよ。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）「頑張る地方応援プログラム」の実進を進めるために、そういう計画周辺図については、一部もう地籍調査は終えております。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）だいたい終わられているということか理解していいですか。ですから、そこのところの、後でちょっと質問にありますが周辺道路の整備云々の問題があるかと思えます。それで、同じように先ほど部長答弁の中でございましたこの橋を渡って国城山のところを上を上がっていく今後の観光拠点となるであろうと思われる国城山周辺の調査時期はいつ頃になるかという予定があれば、ご紹介いただきたいと思えます。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）常々市長は371号の玉川から高野山を回って橋本に出ていくルート、あるいは逆のルートで橋本を活性化したいというような願いもございますので、橋本の活性化ができるよう、例えば紀の川左岸広域農道につきましては、1期、2期が現在着手をしております。8月29日に市長も河南幹線広域道路の整備、地元の協議会に出まして一日も早く用地買収が完成するよう地元の皆さんに呼びかけでございます。3期、4期が従来平成22年以降着手ということでございましたが、そういった意味で早く着手できることもあり、来年度から3期、4期の広域農道の着手もできる可能性がありますので、用地買収が済みましたら新たな幹線道路ができ

るということで、早期に検討を始めてまいりたいというふうに考えています。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）済みません。地籍調査のことです、国城山周辺の。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）地籍調査につきましては、一応山間部ということで国城山周辺の杭打ちを地元をお願いしていますので、平成19年度から国城山周辺の民地の杭打ちが完了次第、本格的調査を進めてまいりたいと考えています。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）はい、ありがとうございます。済みません、ちょっとあっち行ったり、こっち行ったりになりまして申しわけありません。

地籍調査でもう一点。先ほどご答弁にございました事前調査の杭支給による民地境界杭設置を見せていただきましたが、小字単位、もしくは区単位での申請ということになっております。私も彦谷奥のほうで幾つかうちのあれもあるわけですが、隣りに大阪の方がおられるとか、あるいは他地区の持ち主がたくさんおられるという実情の中で、しかも高齢化が進んでいるという中で、なかなか区単位というのは実施が非常に難しいかと思っておりますので、その辺の例えば1対1でも杭を事前調査として認めていただけるのか、緩和処置を考えていただきたい。それからGPSなどの機器を貸し出していただいて、杭をどの地点に打ったよということが後でわかるような施策をとりたいと思うんですが、この辺のところは、今の時点でいかがでしょう。

○議長（中上良隆君）経済部長。

○経済部長（仲 完治君）区単位、一部字単位ということですが、自治会区、自治区、全域をしていただけたらありがたいんですけど

も、字単位でも民地でやっていただければ、境界杭を出していきたいというふうに考えてございますので、大阪、他市の地主があらうと思いますが、民地お立ち会いはいただけるようでしたら、支給杭を出していきたいというふうに思っています。それから、ポイントについていって地籍調査のような杭をお渡しするわけですが、それを永久にとどめて測点をするということはちょっと不可能でございますので、だいたいのポイントを残していただくというような方法で次期の調査を早く進めたいというふうに考えています。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。ぜひ谷単位とかそういう1対1の場合でも、杭のほう、なかなか3人も4人も寄るとするのは山の中の場合は難しいと思いますので。

ちょっと時間がなくなってきましたので、「頑張る地方応援プログラム」の中で、一つだけお伺いいたします。周辺道路整備で5億5,000万円ほど事業費を見ておられますけれど、この辺につきましては、何らかの計画あるいは拡幅工事の予定があるのかどうか、よろしくお祈いします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）やどりの関係じゃなしに。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）申しわけございません。

「頑張る地方応援プログラム」の6番の観光交流プロジェクトということで、その企画の中に周辺道路整備というのが入ってございます。やどりの青少年旅行村の温泉も含めての開発の中で、周辺道路整備と書いておられますが、やどりに向いての道路工事云々の拡幅の予定とかお伺いできたらと思います。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）失礼しました。6

番の「頑張る地方応援プログラム」のやどり周辺整備の中の道路整備ということで解釈されますけれども、これにつきましては、ちょっといきさつから言いましたら、もともとダムの基金を利用して遅れた開発というのですか、整備を促進しようということでございます。そういう中で「頑張る地方応援プログラム」の中に位置づけまして、やどり青少年旅行村の改修、それから温泉、それからその周辺、南北やどり線とかいう市道があるわけでございますけれども、その道路の改修、それから駐車場の設置ということで、観光の拠点にする中でこういうものが入ってくるものでございます。ちなみにNTTの鉄塔もそういう位置づけの中でやっているものでございます。

以上でございます。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）ありがとうございます。当分やどりに頑張るということで、あれでございましょうけれども、ご答弁でございましたけれども、今回ひょっとすると紀の川の内水面の利用の規制案が出るのかもわかりませんが、観光という面からいいましたら、紀の川を利用したウォーターフロントの家族連れや若者の遊び場所としての観光、また、国城山周辺の休日周遊の観光、観光農園しかり、やどりももちろんでございますけれども、高野口には嵯峨谷の舞があったり、一本杉があったり、葛城館から—————までの観光資源などがいっぱいあるというふうに思いますので、それぞれ少ない人数ではございましょうけれども、商工観光課のほうでそれぞれご担当をつけていただいて、今後また観光開発にご協力いただきたいなというふうに思います。

それでは、3項目めの移動体通信の難視聴解消についてお伺いいたします。

かなり地形的に難しいのはわかりますので、

あまりしつこくお伺いたくもないんですけど、当然電波テストのようなものはされたいと思いますし、発信場所も何カ所か調査されたいと思います。アンテナも試せる種類のものには試されたのかなというふうに思います。また、後で結構ですけれども、電波伝搬図や地点別の電界強度図などデータがあればお示しいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）現地の調査はしますけれども、電波調査とかそういうのはしてございません。そういう中で位置決定をしておりますのでその点、ご了解よろしくお伺いしたいと思います。

○議長（中上良隆君）7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君）調査されていないということですので、一度、調査されましたら、果たして本当に15メートルの鉄塔が要るのか、あるいは、山の上ですので、ちょっと上のほうにアンテナを立てれば、鉄塔が4m、5mで済むよという場合も出てきようかと思えます。よろしく調査のほうをお願いしたいと思います。

15mの鉄塔にアンテナ設置という話で聞いておるんですが、15mの鉄塔で1,750万円という予算になっております。これはちょっとお高いのではないかなという気がいたしますので、その辺の予算の吟味もお願いしたいなど。別に反対しているわけではございませんので、予算が通ったからということで、適当に原案どおり使っていくというのではなく、市全般の予算に言えることでしょうかけれども、よく吟味して使っていただきたいと思っておりますので、そのところ、再度部長にご答弁をお願いいたします。

○議長（中上良隆君）企画部長。

○企画部長（吉田長司君）全体事業費が3,250

万円のうち鉄塔につきましては15m未満でございませぬけども、14mか15mの間ということで今考えてございませぬけども、これが鉄塔だけで850万円ということで、あと外構、受電設備、送受信ケーブル、電源設備、それから設計調査費ということで、すべて合わせて3,250万円ということで、鉄塔だけで1,750万円ということではございませぬので、その辺ご了解よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中上良隆君） 7番 中谷和史君。

○7番（中谷和史君） 済みませぬ。そしたらちょっと私の予算書の見方がまずかったのかなというふうに思ひます。じゃ、鉄塔としては実際は850万円と。

あと3点目といたしまして、やどり観光交流センターの開設に向けて本当に携帯電話の不通解消は必要であろうかというふうに思ひます。特に交通事故等につきまして、本当に緊急の連絡が今、赤電話もないと。本当にカワグチのあのあたり一帯と川合橋、川合橋はなかったのか、しかないと思ひますので。

実はこの5月の初め4月の末ぐらいに私の息子の友達がやどりの周辺ではなかったんですか、ちょっと河南の奥のほうで、へびにかまれてまして、また後で消防本部のほうにもあれですけども、電話が伝わらないので、仕方なく九度山のローソンまでおりていって、その電話から119番をしたと。そうしましたら日曜日のことであって、本人たちはマムシではないと認識しておったので、へびにかまれてましたのでどこへ行ったらよろしいですかとお伺ひしたら、伊藤病院へ行けと。伊藤病院へ行ったら血清があるもんやとって本人らが行ったら、傷の治療だけで、「あとははれてきたら那賀病院へ行けよ」と言われて那賀病院へ行ったらと。はれてきたので那賀病院へ行ったらと。うちはそんな血清みたいなものはないから、日赤へ行けよと。その間、救急

車なしです。本人らが自分らで、若者ですから、どうしてええかわからず自分たちで行っている。結局日赤へ行ってもう手おくれやと。点滴治療で終わったようでありませぬけれども、あまり大きなへびでなかったんで、腕がはれただけだった。あとは通院しなさいということで、その子は高野山の子だったので、あと通院で高野山病院へ行ったら、何でうちへ来いへんのやと。初めにうちに来たら血清ぐらいいくらでもあるのにとという事例がありました。実際うちの息子の友達ですので、だれそのだれそれまでわかっておるんですけども。

そこで消防本部にもお願ひしたいんですけども、きのうの答弁でもありましたように軽症であれば病院の紹介だけで済むよという話ですけども、その紹介するときに、ああいう若者たちの事情説明が非常にあいまいな中で、やはりへびにかまれたと言っておれば、本人らがシマへびやと言っておっても、やっぱり一応血清のある病院を。市民病院に行ったら多分あったやろうと思ひますし、それこそあの谷合いで電話がつながれば、そんなもん、すぐに高野山病院へ走れよ、そっちのほうに近いやないかという指導もできたかなというふうに思ひますので、ぜひ緊急連絡としての整備とまた消防のほうのそういう病院の指導もお願ひしたいなというふうに思ひます。

そんなことで緊急連絡整備としてNTTのほうも採算云々という話があると思ひます。NTTのほうもアンテナの採算を見るときに、多分企画の方は6万人ぐらいの入り込みということで申請したと聞いておりますけれども、「頑張る地方応援プログラム」では入り込み観光客数が77万人と書かれております。そこから、交渉の、だますわけではないでしょうけど、この77万人のうちの約半分はあそこの道を通るんやとかいう形でいけば、NTTも採

算がとれるというふうに思うのではないかな
と思いますので、ぜひ早急にやどりの周辺、
あるいは谷合いのところのアンテナ整備につ
いて考えていただきたいということで、ご答
弁はいただきませんので終わりたいと思いま
す。ありがとうございました。

○議長（中上良隆君）これをもって7番 中
谷和史君の一般質問は終わりました。

この際、3時10分まで休憩いたします。

（午後2時58分 休憩）